

令和7年度 高志中学校1年 「高志学」福井県立こども歴史文化館研修

- 1 期 日 6月26日(木)
- 2 場 所 福井県立こども歴史文化館
- 3 参加生徒 88名
- 4 報 告

令和7年6月26日(木)に1年生が、「高志学」の中の「福井の歴史(とき)」の探究活動の一助とすることを主な目的として、こども歴史文化館研修を実施しました。

「交流ひろば」では、越国(こしのくに)の説明を聞きました。越国は北陸の古代(飛鳥～平安)の名前で、都や近畿から山を越えたことが由来であり、後に律令制に基づき越前、越中、越後に分かれたということを知りました。また、「越国」と漢字で記される以前には「高志国」と記され、本校の名前の由来について知ることができました。



「漢字ワールド」では、白川文字学について学びました。白川文字学を考えた白川静先生は福井で生まれ、小学校卒業まで福井で過ごしたことを知るとともに、映像を利用し、漢字の部首などを手に乗せて確かめたり、彫ってある甲骨文字の上に紙をのせ、鉛筆で塗って文字を浮き上がらせたりして、白川文字学の漢字を知りました。

「科学ワールド」では、素粒子を3Dシアターで学んだり、南部陽一郎先生について学んだりしました。南部先生が学生時代を福井で過ごしたことを知るとともに、様々な困難を乗り越えて物理学を大きく進歩させたことを知りました。また、南部先生が当館に寄贈したノーベル物理学賞のメダルのレプリカに興味津々でした。



「コレクションひろば」では、蓄音機の仕組みについて学びました。実際にレコードの溝にカードを当て、振動を実際に感じながら音の鳴る仕組みを知ることができました。

「先人のひろば」では、古代から近現代までの福井にゆかりがある人物が多数取り上げられており、各々が興味のある人物について学びました。

今回の研修では様々なコーナーが設けられていましたが、どのコーナーにおいても、とても興味をもって研修することができました。研修後には、「時間があまりなかったので、今度、自分で行ってみたい」という感想が多く見られるなど、生徒たちにとって充実した研修でした。